

会 議 録

会議名	第6期第1回南砺市協働のまちづくり推進会議
議題	(1) 南砺市まちづくり基本条例について (2) これまでの取り組みについて (3) 今期の協議内容及びスケジュール（案）について
開催日時	令和6年7月8日（月） 開会時間：午後7時／閉会時間：午後9時
開催場所	南砺市役所 別館3階 大ホール
会議出席者	〔委員：全20名〕 ※50音順、敬称略 出席：荒木 信人、上坂 紀子、長田 正勝、北川 弓子、 窪田 茂子、齊藤 優華、佐竹 弘昭、嶋田 隆、 清部 一夫、竹部 俊恵、俵 圭子、中山 明美、 林 則雄、松本 久介、三谷 直樹、南 眞司、 安居 時美、山本 剛 欠席：磯辺 文雄、坂本 博昭 〔市：出席5名〕 市長 田中 幹夫 事務局 市民協働部長 岩本 真佐美 南砺で暮らしません課長 大浦 幸恵 〃 協働のまちづくり係長 野原 加奈子 〃 主事 得能 基史 〔傍聴者：なし〕
委嘱書交付 市長あいさつ	田中市長より各委員に交付
自己紹介	委員及び事務局より自己紹介
委員長及び 副委員長の選任	委員からの推薦により委員長に齊藤優華委員を選任。 委員長からの推薦により副委員長に荒木信人委員を選任。
協議事項	【事務局より資料説明】 協議事項 (1) 南砺市まちづくり基本条例について (2) これまでの取り組みについて (3) 今期の協議内容及びスケジュール（案）について

A委員

説明の中で「協働のまちづくり支援センターのホームページ作成」とあった。単独で作ることを想定しているのか、どこかとリンクさせるような形か、事務局案を教えてほしい。私は数年前からデジタル南砺協議会に参画しており、デジタルシティサービスにより地域課題を解消することを目指して活動している。ホームページ作成の際も、何か他のものと繋げていくようなことができればと思う。

事務局

単独のホームページとして作成することを想定しているが、いろいろなサイト等と連携させていきたいと考えているので、またご意見をいただきたい。

B委員

協働のまちづくり支援センターのあり方について提議したい。これは、南砺で暮らしません課が管理するセンターであるが、設立目的や役割を共通認識しなければならない。協働のまちづくり支援センターとは、まちづくりをしたい人を応援する場所である。支援対象は、まちづくり系の市民活動、課題解決系の市民活動、住民活動の3つだと思う。協働のまちづくり支援センターの役割は2つの中間支援組織の活動が担っていく枠組みとなっている。資金的な支援は公益財団法人なんと幸せ未来基金（以下、未来基金）、人的支援は一般社団なんと未来支援センター（以下、支援センター）が担っている。まだ5年目なので完全ではないが、推進会議の委員の皆さまには理解しておいていただきたく、提議させていただいた。

C委員

今年度、支援センターの活動をサポートする意味で新たな部会を立ち上げ、小規模多機能自治の推進等について議論している。これまでカバーしていなかった、地域づくり協議会ではない地域づくり活動に対する伴走支援をしていきたい。例えば、会長の個人宅を活動場所にしている団体に支援センターが場所を貸すなど、事業を新たに展開できればと思う。市役所の専属職員がいないことにも疑問を感じる。

現状、支援センターは移住定住や婚活など、南砺で暮らしません課の下請けになっている。私は違うと思う。市役所が協働のまちづくり支援センターに人員配置し、任務を遂行すべきだと思う。地域おこし協力隊は素晴らしい制度だと思うが、南砺で暮らしません課の下請けをするための制度ではない。協働のまちづくり支援センターにも福祉担当の市職員を配置してもいいと思うし、協働のまちづくり支援センターを作り直すくらいの気持ちで取り組むべきだと思う。

D委員

会議資料に書いてある取り組み案はあくまで案なので、ゼロベースで我々が提案していけるものだと思っている。これまで推進会議は支援センターに対するアプローチをしていなかったが、これからは支援センターに対しても関わっていけるという意見があって、驚いている。

前期は勉強会が多かったので、今期は協議の時間を増やしていければと思う。条例を文章で読んでもあまり意味はなく、例えば「こういうことをやったらこういうことができますよ。こういう事例がありますよ。」という情報を提供していくことが大切なのかなと思う。今回は、地域づくり協議会の方も多くおられるので、そのような機会を増やしていければと思う。

E委員

支援センターの役割、中間支援組織の役割をしっかりとしていくということは大切だと思うが、それは部会の中で取り上げていく必要があるのではないかと思う。

資料に記載してある部会案は、南砺で暮らしません課での課題認識があって出されたものだと思うが、それについて事務局に説明を求めたい。

D委員

この資料は前期の引き継ぎから来ているものなので、それ以上に必要なものがあれば議論していくべきだと思う。次回の全体会は9月ではなく、もっと早く開催しても良いのではないかと思う。

C委員

前期は部会設立までに多くの時間をかけた。委員全員の発言を求め、必要なことを洗い出した。部会設立の前段階が大事である。

事務局案はそもそも書く必要がない。白紙で良かった。9月に部会を立ち上げることはあり得ない。部会の数は3つでも4つでも良い。結論やスケジュールありきの議論ではいけないと思う。12月ごろまで落ち着いて3～4回の全体会を実施して、部会を決めれば良いと思う。

F委員

前期までの議論の積み上げがあるので、それを踏まえた上で、今期のメンバーも含めて決定できればと思う。ホームページとパンフレットについては予算もついたので、部会を設立して協議できればと思う。

C委員

ホームページとパンフレットは行政が作って、推進会議に了解を取れば良い。ホームページの内容等は推進会議で議論することではない。

	G委員 前回の提言を具現化しようという思いがあるので、それを具現化する部会というのが事務局の案だと思う。推進会議として南砺市に何を求めるのか、どのような役割を果たすべきか考えることが大切だと思う。 H委員 これまでの議論を聞き、支援センターや中間支援組織の役割が固まっていないように感じる。ホームページやパンフレットの作成は、それらの役割が固まってからになるのではないかと思う。地域づくり協議会に関わる者としては、南砺で暮らしません課と中間支援組織のすみ分けがはっきりして欲しいと感じる時があるので、それについて議論する部会があってもいいと思う。 B委員 協働のまちづくり支援センターの設置目的が果たされるように管理することは、南砺で暮らしません課に期待される役割だと思う。 D委員 これまでたくさんの意見が出たので、次回の会議をもっと早く開催し、部会の策定に向けて議論を進めていくべきだと思う。 C委員 推進会議から市長への提言は、前期は1回だった。毎年度末でも、何度でも出せばいいと思う。 委員長 前期までの確認と今後の流れについて、委員間でバラバラな方向を向いていては進まないと思うので、立ち止まって確認したい。 前期の前半は勉強会を通して委員間の議論の足並みを揃えて、市民側から見た課題解決、行政側から見た課題解決のための提言を行った。良い条例があっても、どのような流れで誰に相談すればいいのかわからなければ、ネットワークが構築できなければ、市民は動けない。それを具体的に形にしてくのが第6期だと考えている。 提案した部会名称は仮であるので、話しやすい部会ができるよう、まずはアンケートをとって意見を取りまとめて、次回以降の全体会で検討していきたい。
閉会	副委員長があいさつし、会議終了